松原・下筌・大山ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会

～大山ダムの取組～

筑後川上流総合管理所
大山ダム管理所
上野　英二

H24（2012）3.25　大山ダム試験湛水時状況

説明内容

- 大山ダムの概要
- 大山ダムの周辺環境
- 自治会が抱える課題
- これまでの取組
- よせられた要望
- 大山ダムの取組

大山ダムの概要【大山ダムの位置】

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

- 大山ダムは筑後川河口から約83km地点に合流する赤石川の約3km地点に位置。

大山ダムの概要【大山ダムの目的と貯水池の諸元】

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

１．洪水調節

大山ダム地点における計画高水流量690m³/sのうち、570m³/s の洪水調節を行い沿川の洪水被害を軽減する。

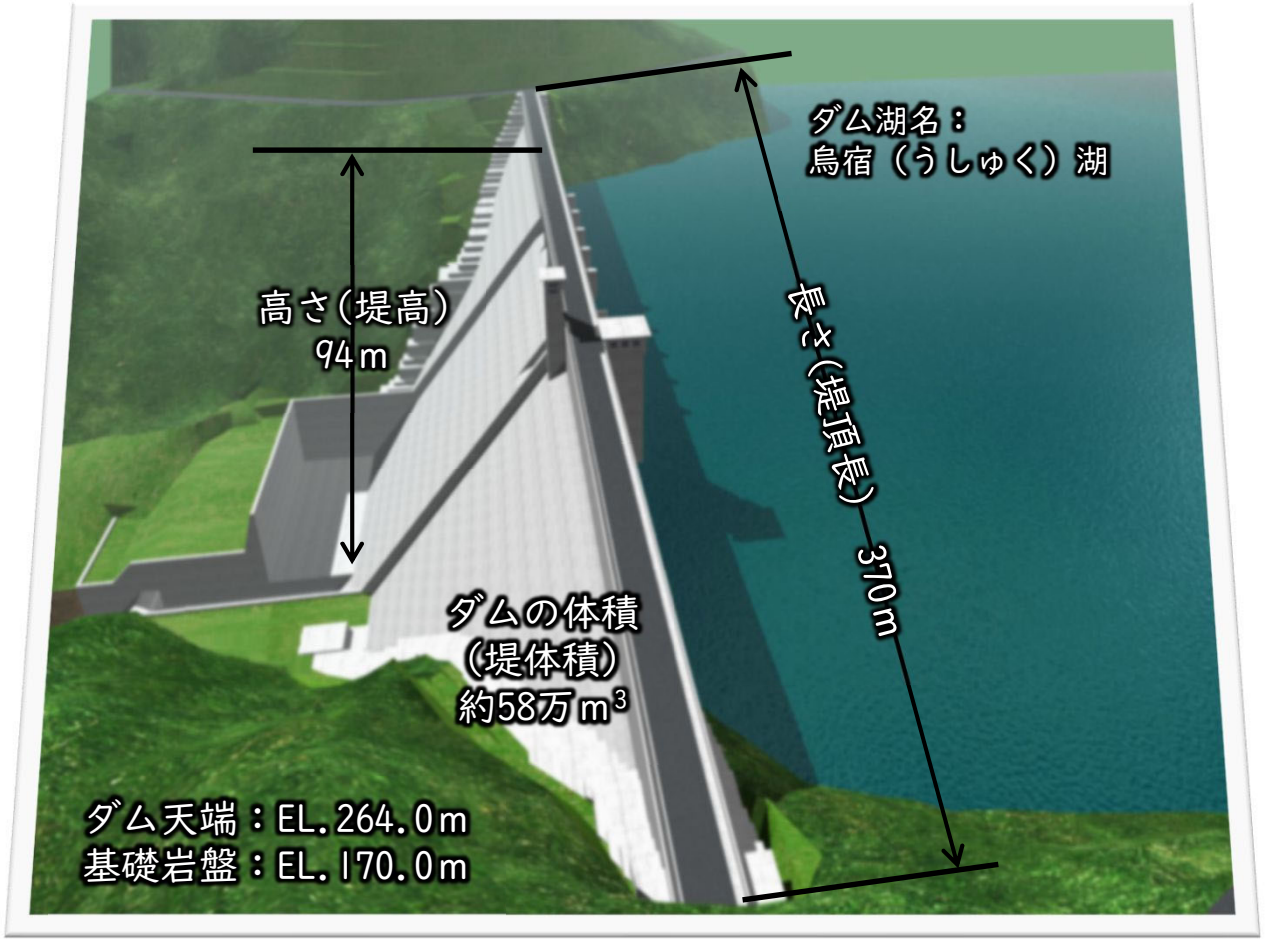
２．流水の正常な機能の維持

赤石川及び筑後川の既得用水の安定化と河川環境の保全を図る。

３．水道用水の供給

福岡県南広域水道企業団及び福岡地区水道企業団に対して、瀬ノ下地点（久留米市）において、水道用水として新たに最大1.31m³/sの取水を可能とする。

※福岡県南；0.707m³/s、福岡地区；0.603m³/s



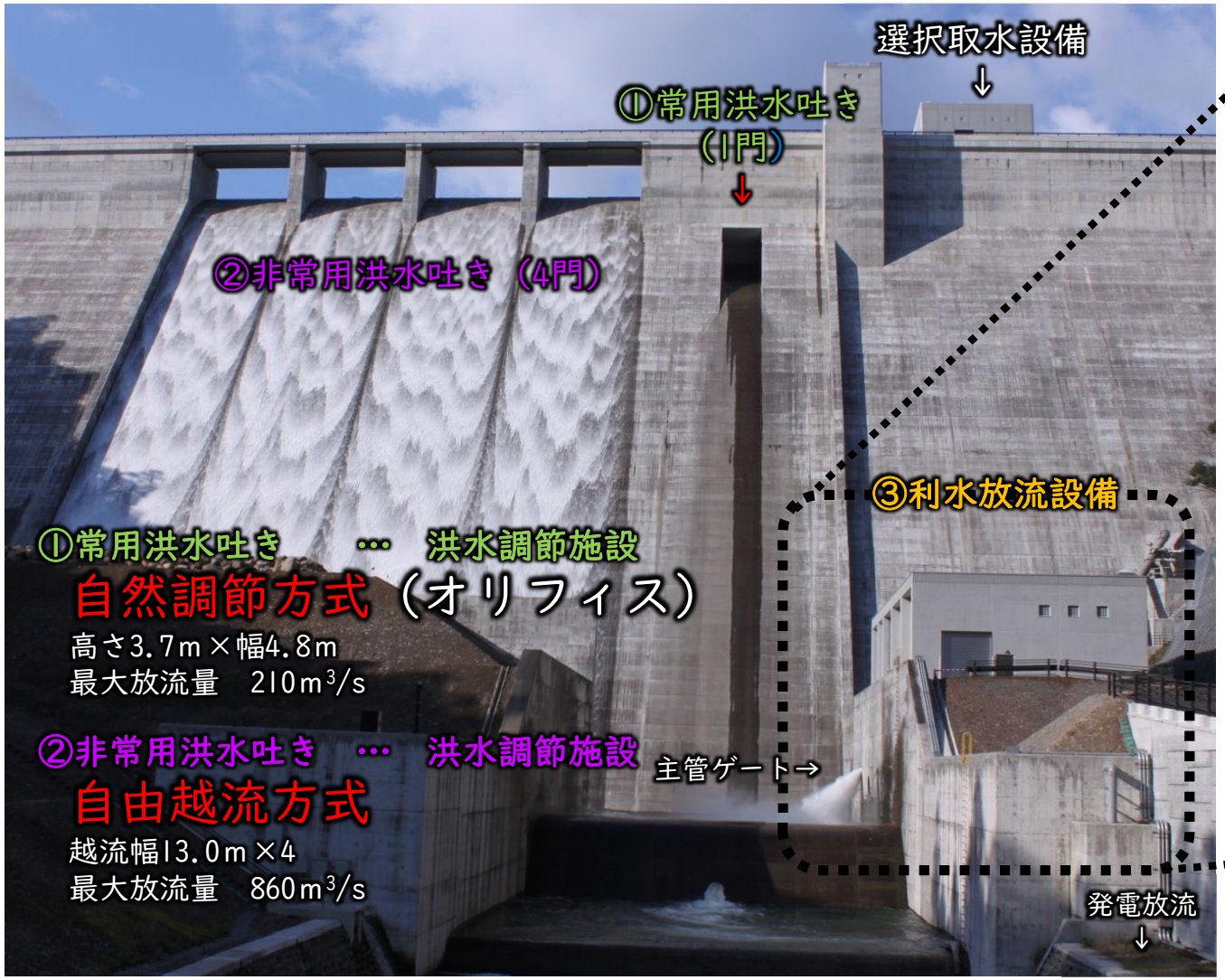
●貯水池諸元

貯水池	流域面積		33.6km²
	湛水面積		0.6km²
	総貯水容量		1,960万m³
		洪水調節容量	700万m³
		利水容量	1,100万m³
		都市用水	630万m³
		不特定	470万m³
		堆砂容量	160万m³
ダム	堤高		94m
	堤頂長		370m
	堤体積		58万m³
	堤頂標高		EL.264.0m
	堤頂幅		8.0m

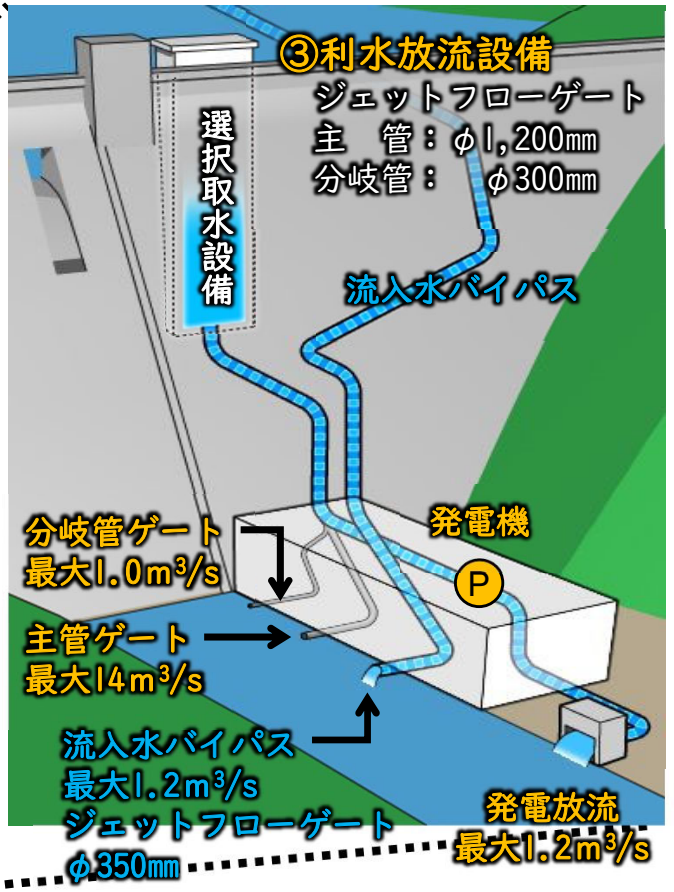
大山ダムの概要【大山ダムからの放流】

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

常時満水位を超える放流は、常用洪水吐きから越流を開始し、降雨により貯水位が上昇放流し、異常洪水防災操作時は非常用洪水吐きから放流する。



●利水放流設備の全体像

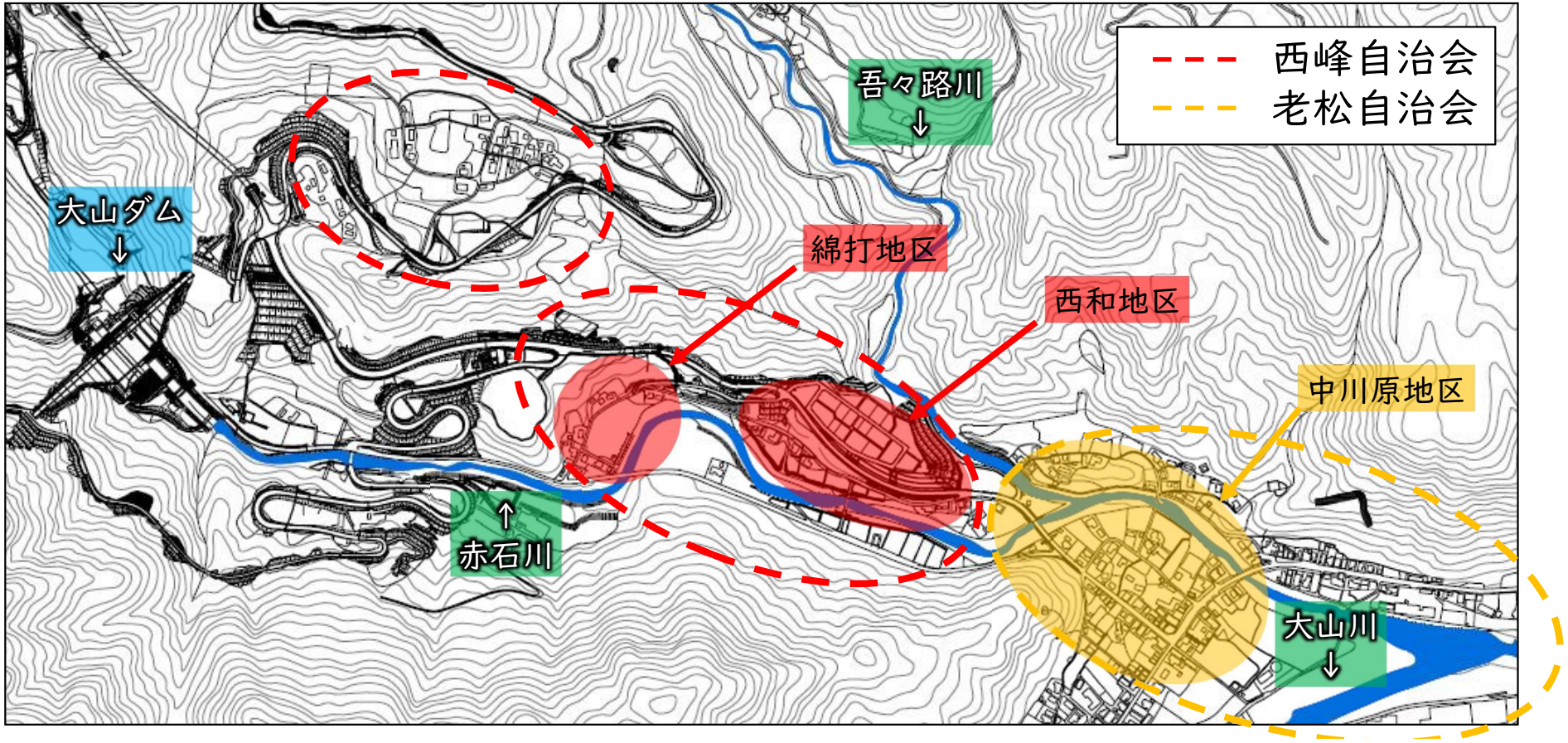


※試験湛水中の写真のため、常用洪水吐きには仮締切りゲートが下ろしてある。供用後、常用洪水吐きにゲートは設置していない（ゲートレス）。

大山ダムの周辺環境

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

- 大山ダムが隣接する自治会は、おおやま西峰自治会、おおやま老松自治会。
- 大山ダム下流には、綿打地区、西和地区（おおやま西峰自治会）、中川原地区（おおやま老松自治会）があり、大山ダムからの放流の影響を受ける地域。
- 大山ダム上流部には、加峯地区、田来原地区、竹の迫地区（おおやま西峰自治会）があり、広範囲にわたる。



自治会が抱える課題

地域防災組織として「避難行動要支援者の把握と支援体制づくり」「地域ごとの個別計画（避難場所、避難方法、情報伝達方法等）の策定」を行わなければならない。

- しかし、地域での高齢化、人口減が進行しており、組織化の困難性や事態に即応する能力不足といった不安を潜在的に抱えているのが現状。
- さらに、昨今の災害の激甚化、特に九州で頻発に災害が発生していること鑑みると不安は募るばかり。

これまでの取組

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

- 毎年出水期前におおやま西峰自治会、おおやま老松自治会に対し、自治会長とのリスクコミュニケーションを行っている。
- 住民に対しては、異常洪水時防災操作についてのチラシの配布や地域イベントでの説明ブースの開設、異常洪水時防災操作時の警告音の試聴会などを実施。

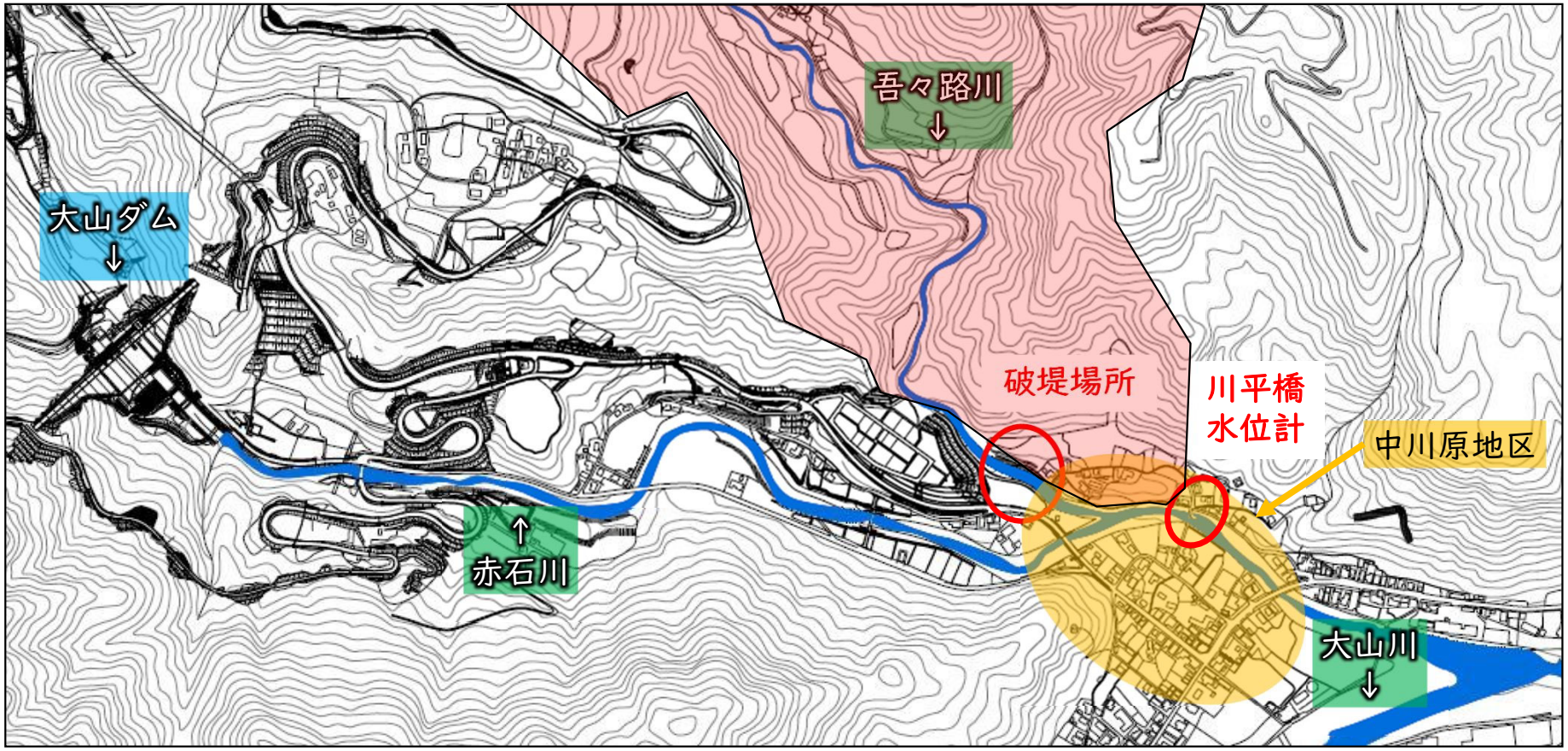
各自治会長への説明状況

説明ブースでの住民への説明状況
（大山ふるさと夏まつり）

配布したチラシ

よせられた要望

- 各自治会より地域の地区班長や若年層とのリスクコミュニケーションを行ってほしいとの要望がよせられ、令和４年度では４回開催した。
- 各地域個別の地理的・社会的要因等を踏まえた出水や土砂災害についての意見交換もなされ、地域が抱える具体的な不安や悩みを知る機会となった。（例：吾々路川の状況）



大山ダムの取組【異常洪水時防災操作時の警告方法】

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

- 異常洪水時防災操作時に各警報局から発報される警告音が場所によって聞こえにくい箇所があるとの意見がよせられた。
- 日田市が各家庭に備えている防災ラジオから放送してもらえないかとの要望をいただいた。

主な特徴

- 大山振興局から放送が可能、放送箇所も地区ごとに設定可能。
- 放送内容は、パソコンにテキストを打ち込んで放送。
- 防災ラジオは、通常時は音量を抑えていても緊急時は最大音量で放送される。
- 電源は乾電池でも作動するので、停電時でも機能を発揮。

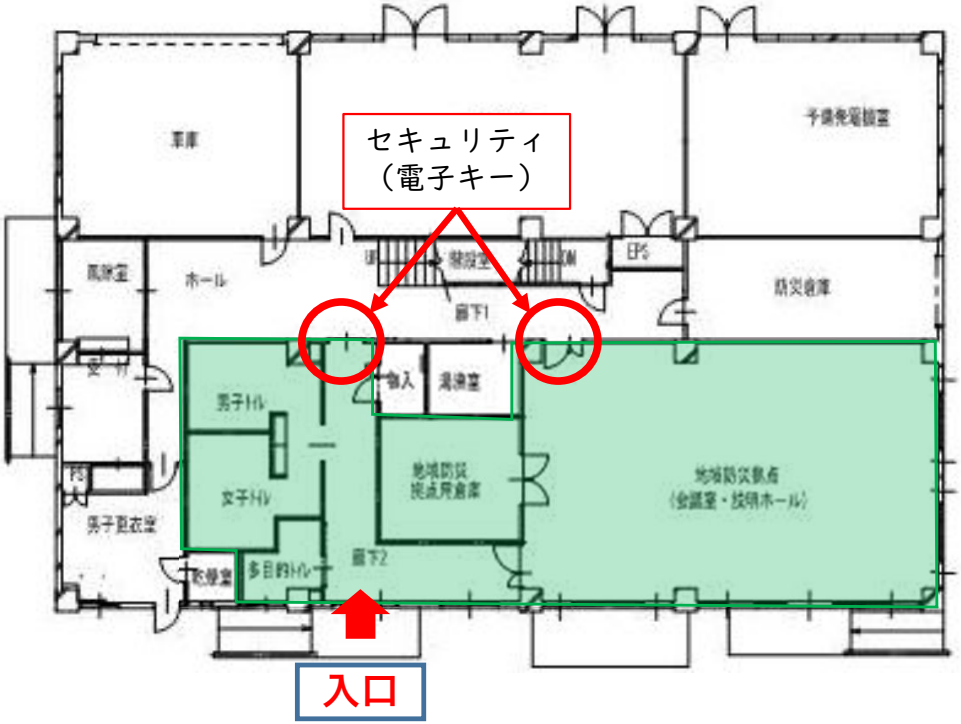
防災ラジオ
（日田市ＨＰより）

防災行政無線スピーカ
（大山振興局前）

大山ダムの取組【自主避難所】

独立行政法人
水資源機構
筑後川上流総合管理所

- おおやま西峰自治会からの要望で、避難を要する場合、避難場所のコミュニケーションセンターまで時間を要す世帯もあるため、豪雨などにより移動が困難な場合に、管理所の説明ホールを一時的な避難所として提供してもらえないかとの相談を受けた。
- 大山ダムの説明ホールは、見学者への説明や会議などに使用。セキュリティ機能もあり、防災時など事務室や操作室とのエリア分けができることから、業務の支障にはならないと判断し、提供することとした。



管理所平面図

管理所外観　（赤枠内：提供エリア）